

## 令和7年度酪農教育ファーム活動計画

令和 7年 3月 31日  
一般社団法人 中央酪農会議  
酪農教育ファーム推進委員会

### I. 酪農をめぐる情勢等について

#### 1. 酪農などをめぐる情勢について

- (1) 令和7年度については、世界経済の成長は安定を続ける見通しにあり、国内の経済については、物価高の影響があるものの、緩やかな回復傾向が続くと見込まれている。一方、米国の新大統領就任に伴う世界貿易への影響、国内では物価高騰を上回る賃金水準の上昇が焦点の一つとなっており、今後の見通しは予断できないとの見方も出ている。
- (2) 農業政策の動向については、食料の安定供給の確保や農業の持続的な発展などを盛り込んだ改正食料・農業・農村基本法が令和6年6月5日に公布、施行された。農林水産省は改正農基法で定めた基本理念の実現を図るため、令和7年3月中に新たな食料・農業・農村基本計画の策定を目指している。
- (3) 酪農政策関係では、飼料を始めとした生産資材価格の高止まりが続く中、農水省は生産コスト増嵩分を小売価格に転嫁する適正な価格形成について関連法案の改正に向けた検討を進めているほか、令和7年3月末に新たな酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針の策定を予定している。生乳生産目標数量は、令和12年度は現状並み（令和5年度732万ト）、長期的な姿（参考）は780万トと明記、今後は生乳の需要拡大と需要に応じた生産の推進による需給ギャップの解消が課題となっている。
- (4) 酪農経営をめぐる情勢については、飼料など生産資材価格の高騰を踏まえ、指定生乳生産者団体を中心に令和4年度から複数回の乳価引き上げを実現してきた。しかし、酪農家からは、この乳価の引き上げ水準では経営を賄うことができないなどの意見が出ており、令和6年10月には指定団体に生乳販売を委託する全国の酪農家戸数は初めて1万戸を割り込んだ。  
生乳の需給動向については、令和6年度は前年並みに戻るものの、令和7年度は後継牛不足から減産を懸念する見方も出ている。消費面では乳価値上げの影響で牛乳の消費低迷が続く中、乳製品向け処理量が増加。需要については、脱脂粉乳は引き続き減少し在庫解消が課題となる一方、バターは業務用を中心に好調に推移し、需要の跛行性が課題となっている。
- (5) こうした状況に加え、今年6月からは乳製品向け乳価の引き上げが決まり、今後の需要への影響が懸念されている。令和7年度は、これまで以上に消費者への酪農理解醸成活動を通じて、適正な価格での国産牛乳・乳製品の需要の確保が重要となっている。酪農理解醸成活動の一環として、酪農教育ファーム活動の役割についても重要性が増しており、学校教育関係者などを含めた活動のさらなる広がりが期待されている。

## 2. 酪農教育ファーム活動を巡る課題等

### (1) 家畜防疫に係るリスクの高まり

- ①国内初の牛のランピースキン病発生、他畜種における伝染性疾病の発生・まん延。
- ②海外からの入国者も含め、国内での人の移動が活発化。
- ③酪農教育ファーム活動については、コロナ禍により活動数が大きく減少したが、徐々に再開され、今後さらに活発化することが想定される。
- ④こうしたことから、家畜防疫に係るリスクが高まっており、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みの徹底が、一層重要となっている。

### (2) スキルアップ研修会の参加状況（令和6年度もWEB開催参加に集中）

- ①コロナ禍で人の動きが制限されていた令和3年度から、ファシリテーターの認証を更新する「スキルアップ研修会」についてはWEBによる開催を追加した。コロナ禍が落ち着き始めた令和4年度からは、対面開催を復活し、WEB開催と併用する形式で実施している。
- ②コロナ禍前は対面開催しか選択肢がなかったが、交通費がかからず自宅などから参加できるWEB開催で、ファシリテーターの更新希望者の多くがWEB開催に参加。一方、対面開催を希望する声もあったため、令和4年度から対面開催を復活したが、WEB開催に参加が集中。令和6年度は、WEB開催を3回に増やし、対面開催は4回実施したが、WEB開催に参加が集中する傾向は続いている。

#### 【参考】 スキルアップ研修会の参加状況

(R4年度)

WEB開催（2回）60人：札幌11人、東京（2回）17人、大阪9人、福岡8人

(R5年度)

WEB開催（2回）56人：札幌9人、東京22人、大阪9人、福岡7人

(R6年度)

WEB開催（3回）84人：札幌14人、東京（2回）22人、大阪12人

### (3) 活動実態調査の回収率の減少

- ①酪農教育ファーム活動は、その社会的な注目や評価もあり、実態データ（牧場への訪問者数や訪問団体の種類、出前型活動の実態など）の公表や分析が求められる状況にある。そのため、年に2回、認証牧場及びファシリテーターに対して「活動実態調査」を実施しているが、近年、回収率が大きく減少している。
- ②活動実態調査の重要性については、認証研修会で説明するとともに、調査依頼文書の中にも記載しているが、ファシリテーターや関係者に対して、より一層の周知が必要。令和6年度に、感動通信を「MILK CLUB」と統合したことに伴い調査票の同封を廃止し、スマートフォンから直接入力できるグーグルフォームによる調査方法を導入したが、回答数が少ないため、引き続き、周知を図る必要がある。

### (4) 地域推進委員会における活動等の停滞

一部の地域において、地域推進委員会が開催されない、地域で行う酪農教育ファーム活動が実施されていない等の状況がある。

### 3. 課題等を踏まえた令和7年度酪農教育ファーム活動の考え方

- (1) 令和7年度は現行の認証制度及び推進体制の下、「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的に、認証を受けたファシリテーターが学校等と連携しながら、牧場や学校等を舞台に行う教育活動「酪農教育ファーム活動」を推進するとともに、酪農教育ファーム専門委員会のとりまとめや酪農教育ファーム推進委員会の協議を踏まえた今後の新たな認証制度の周知期間と位置づける。
- (2) 酪農教育ファーム活動の推進を通じて、体験者自らの「食やしごと、いのちの学び」を支援するとともに、酪農や生乳の特性・重要性、酪農における「持続可能な社会の実現」に資する取り組み、酪農経営の実態や生乳需給の状況等について、直接伝えることで、日本酪農への理解者・応援団の拡大等に繋げる。
- (3) コロナ禍の終息に伴い、海外からの入国者も含めた人の移動が活発になる中で、諸外国の一部地域での家畜の伝染性疾病の発生及びまん延を踏まえ、酪農生産現場での取り組みにおいては、飼養衛生管理基準の順守及び感染症防疫マニュアルに則った取り組みを徹底する。
- (4) 本会議が主催する酪農教育ファーム関連会議・研修会等の開催手法については、対面開催、WEB開催のほか、対面とWEBを組み合わせたハイブリッド開催も含めて臨機応変に対応する。
- (5) 地域推進委員会においては、酪農教育ファームファシリテーターや酪農関係者、教育関係者等による推進委員会を開催し、地域の実態や課題等を踏まえながら、現場での取り組みを推進する。

## II. 令和7年度活動計画

### 1. 推進委員会等

- (1) 全国の酪農教育ファーム推進委員会の開催【1回、3月】
- (2) 指定団体担当者会議の開催【1回、2～3月】
- (3) 地域推進委員会への支援・出席

### 2. 認証制度の適切な運用

酪農教育ファーム専門委員会のとりまとめ、酪農教育ファーム推進委員会の協議結果を踏まえた今後の新たな認証制度について、現行の認証牧場、ファシリテーターをはじめ、5月から募集を始める新規申請者に対しても、不安や混乱が生じないように周知徹底を図る。

- (1) 新規認証牧場・ファシリテーターの募集【5月募集開始、11月末締切】
- (2) 認証審査委員会の開催【1回、12月】
- (3) 認証制度に係る研修会の開催

①認証研修会【3回、2～3月】

■全て対面とする。(札幌、東京、大阪)

②スキルアップ研修会【検討中】

令和6年度第2回酪農教育ファーム推進委員会で、専門委員会のとりまとめを踏まえた今後の開催方法などを協議する。その結果を踏まえ、開催時期、方法などを決める。

なお、全ファシリテーターを対象にしたアンケート調査を実施し、令和8年度以降の研修会の開催方法や内容について要望を募り、今後の進め方に反映する。

(4) 活動実態調査の実施

令和7年度については、今後の新たな認証制度を踏まえ、ファシリテーター（認証牧場）は次年度の活動継続届出書と一緒に、通年の活動報告を令和8年度当初に提出する。

また、調査の実施に当たっては、認証牧場・ファシリテーター等に対して、調査の重要性とともに、昨年度導入したGoogleフォームによる回答方法を周知する。

(5) 認証牧場・ファシリテーターの管理

(6) 地域推進委員会による牧場現地検査・審査（3年に1回の実施を徹底する）

### 3. 実践者および理解者の拡大・普及

(1) 各種会議・研修会や、酪農専門フリーマガジン「MILK CLUB」、ホームページ、フェイスブック等における、認証制度の仕組みや認証を受けて活動することの意義の再周知。

(2) 地域推進委員会における、認証期限者への対応と、新規認証取得への取組・PR。

(3) 酪農家等関係者への普及

①業界紙（誌）への記事広告掲載

■掲載紙：全酪新報、デーリイマン

■内容：新規申請者の増加につながる記事など検討中

②酪農家等関係者が集まる研修会・イベント等におけるPR

(4) 教育関係者への普及

①実践研究集会【1回、8～10月】

■共催：日本酪農教育ファーム研究会

■対象：日本酪農教育ファーム研究会会員及びファシリテーター

■開催手法・内容等：日本酪農教育ファーム研究会とともに検討する

②動画「牛乳ってスゴイ！」（令和3年度作成）の周知、活用の促進

(5) 消費者への普及【検討中】

学校関係者等を対象に、酪農教育ファームを実践する牧場で現地研修会を企画するなど酪農教育ファーム活動への理解者を増やす取り組みを実施する。

### 4. 安全・衛生・防疫対策

(1) 文書、ホームページ、フェイスブック、「MILK CLUB」等を活用した情報提供

(2) 各種研修会における講演の実施

(3) インバウンド対策として、複数言語による注意喚起のチラシデータ作成

### 5. 広報

(1) 「MILK CLUB」の「OPEN SESAME！牧場へ行こう」（3ページ）

- で、一般消費者向けに酪農教育ファーム活動の周知を図る。【年4回発行予定】
- (2) ホームページ及びフェイスブックページによる情報発信

## 6. 制作物

- (1) 既存の教材等の増刷・配布
- (2) 各種研修会用ツール及び新規認証者へのツールの制作
- (3) 認証規程、酪農体験学習マニュアル修正版のデータ作成

## 7. 他団体との連携

- (1) 地域交流牧場全国連絡会
- (2) 日本酪農教育ファーム研究会
- (3) 全国農業協同組合連合会
- (4) 全国酪農業協同組合連合会
- (5) (公社) 中央畜産会
- (6) (一社) Jミルク・乳の学術連合

以上